

兵庫県(瀬戸内海・日本海)沿岸海岸漂着物・漂流ごみ等対策推進地域計画

兵庫県の海岸には例年多くのごみが漂着し、景観、自然環境、観光等への影響が懸念されていました。そこで、海岸漂着物処理推進法に基づき、地域の特性を踏まえた海岸漂着物等の回収・処理方法、発生抑制対策、関係者の役割分担等を規定する地域計画を策定しています(2010年度策定、2019年度改定)。

1 漂着だけでなく漂流ごみ・海底ごみの取組を強化

漂着したごみだけでなく、処理責任の不明確な海底・漂流ごみについて、処理体制構築を推進します。

2 陸域から海域(流域圏)を含む広域的な対策の推進

各種協議会等を通じて内陸地域と沿岸地域の垣根を越え、一斉清掃、環境学習・教育を通じた上下流の交流など、様々な主体が協働で総合的な海岸漂着物等の対策を実施します。

3 関係者の役割分担及び相互協力

国、県、市町、地域住民、民間団体等の多様な主体が適切な役割分担の元で、積極的に取り組みます。

掲載HP

ひょうごの環境 <https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/>

廃棄物・リサイクル 海岸漂着物等の対策について

ごみ拾いSNSアプリ

「ピリカ」や「ごみマップ」を利用して、あなたもごみ拾いSNSボランティアに参加しませんか？



ピリカ <https://sns.pirika.org/>
ごみマップ <https://gomi-map.org/>



編集・発行

ひょうご環境保全連絡会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
(兵庫県農政環境部環境管理局水大気課内)
TEL 078-341-7711(代表)/内線3388

監修

兵庫県農政環境部環境管理局環境整備課

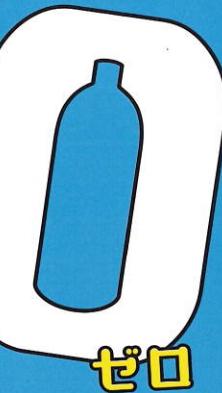
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
TEL (078)341-7711(代表)/内線3349



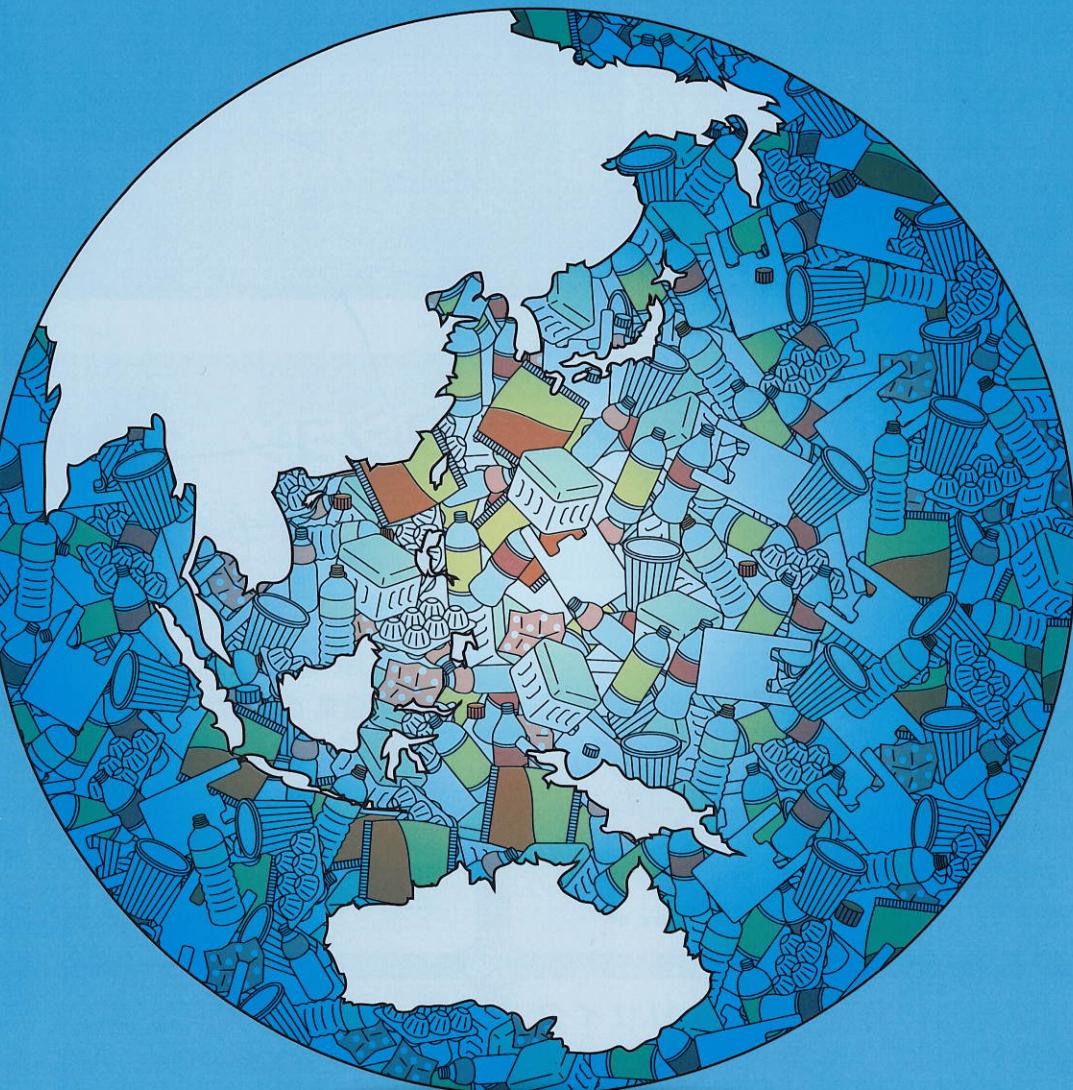
2020年6月発行

兵庫県

プラスチックごみ ゼロアクション

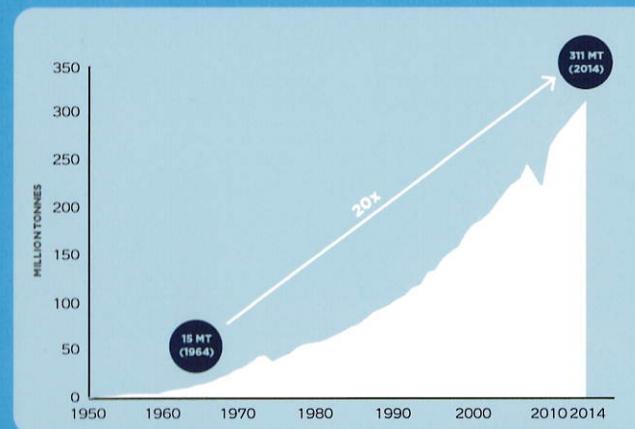


～みんなで考えよう プラスチックのこと 地球のこと～



身边で便利なプラスチック

プラスチックは、多用途性、耐久性、経済性などに優れているため、様々な分野で利用されており、私たちの生活になくてはならない存在です（図1）。1950年以降、プラスチックの生産量は20倍に増加し、2014年には3億1,100万トンに達しました（図2）。



（出典：Ellen MacArthur Foundation, The New Plastics Economy: Rethinking the future of plastics, 2016）



図1 様々な分野で利用されるプラスチック

プラスチックの生産量は、20年後にさらに倍増し、2050年までにほぼ4倍になると予想されています。特に、私たちの生活に身近な容器包装プラスチックが最大の用途で、生産量全体の約26%を占めています。

プラスチックごみゼロアクション～みんなで考えよう プラスチックのこと 地球のこと～

兵庫県では、プラスチックごみ削減を目的に、以下のような対策を展開・推進しています。

① レジ袋削減運動の強化

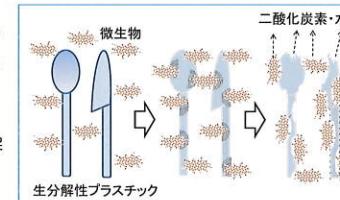
事業者、消費者、行政等で構成する「ひょうごレジ袋削減推進会議」（2007年6月設立）で実施しているレジ袋の使用枚数削減に向けた取組を継続します。また、国が実施するレジ袋有料化による削減効果を把握し、必要に応じて取組の強化をすすめます。



② 海洋生分解性プラスチック等への素材転換の促進

県内企業で生産されている海洋生分解性プラスチック※の導入を促進する等、代替素材への転換を図ります。

※海洋に生息する微生物により分解されるプラスチック



③ ペットボトルの分別・回収・リサイクルの徹底

県内市町及び一部事務組合が実施する観光地等でのごみ分別回収事業、事業者による一般廃棄物分別回収事業、地域でのペットボトル集団回収事業等、先進的なペットボトル分別回収事業に対する補助を実施しています。



④ クリーンアップひょうごキャンペーンの強化

毎年、「ごみ減量・リサイクル推進週間（5月30日（ごみゼロの日）～6月5日）」から環境月間（6月）、海・山開きのシーズン（7月）までの期間、県内各地で環境美化統一キャンペーンを開催しています。2019年度からは、プラスチックの3Rを一層推進するため、2ヶ月延長して9月末まで実施しています。



プラスチックごみの現状

日本では、年間900万トン弱のプラスチックがごみとして排出され、そのうち約84%はリサイクル等で有効利用されていますが、残りの16%は未利用のままです（図3、2018年度）。また、世界中で年間480～1,270万トンのプラスチックが河川等から海洋へ流入し、2050年度には海洋中のプラスチックが魚の量を上回ると予想されています（図4）。

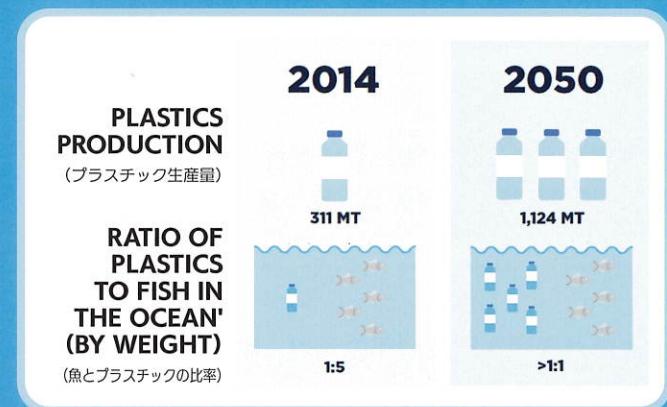


図4 海洋プラスチックごみ量の変化

（出典：Ellen MacArthur Foundation, The New Plastics Economy: Rethinking the future of plastics, 2016）

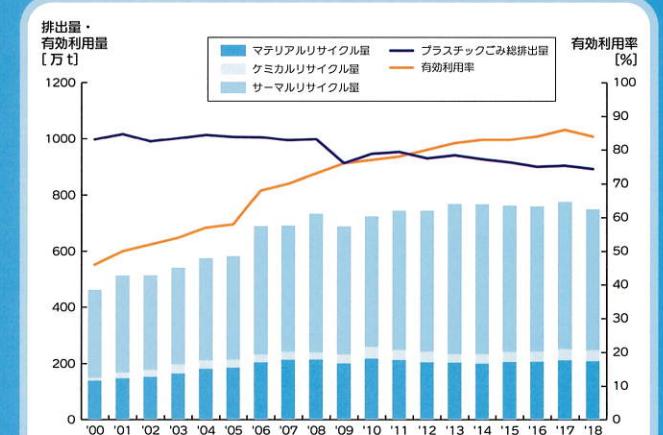


図3 日本におけるプラスチックごみの排出量と有効利用量／率の推移（（一社）プラスチック循環利用協会のデータから兵庫県作成）

さらに、近年、マイクロプラスチック（5ミリ以下の破片）が生態系に与える影響等について国際的に関心が高まっていることからも、プラスチックごみの削減は、世界全体で取り組まなければならない地球規模の課題となっています。

⑤ 漂流ごみ・海底ごみの処理スキーム

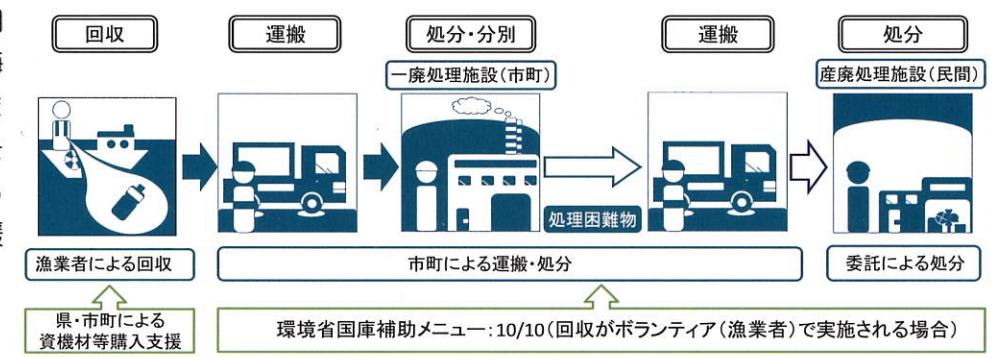


図5 漂流ごみ・海底ごみの処理スキームの一例

⑥ 環境学習・教育の取組

県内の中高校生を対象に、海ごみに関する環境学習や海岸清掃活動を行う「海ごみ環境学習」を実施しています。また、人間形成の基礎が培われる幼児期に、資源を大切にするなど環境に配慮した生活習慣を育成することを目的に「はばタンの環境学習」を実施しています。

